

日 本 史

〔 I 〕 次の (1) ～ (7) の文章を読んで、【設問ア】～【設問コ】の解答を解答欄 I - A に記せ。また【設問 a】～【設問 o】の解答を、[語群] から選んで、その番号を解答欄 I - B に記入せよ。(60点)

(1) 下記は、通称として「魏志倭人伝」と呼ばれる邪馬台国に関する史料の一部であり、当時の外交について述べている。

景初二年六月、倭の女王、大夫難升米等を遣し郡に詣り、天子に詣りて朝献せんことを求む。……その年十二月、詔書して倭の女王に報じて曰く、「……今汝を以て親魏倭王と為し、金印紫綬を假し、装封して帯方の太守に付し假授せしむ。……」と。(原漢文)

【設問 a】 この史料が含まれる中国の正史の名称を [語群] から選んで、その番号を解答欄 I - B に記入せよ。

【設問ア】 この時、倭の女王・卑弥呼が授かったと考えられる鏡として、景初3年の銘文を有する島根県神原神社古墳出土鏡の例がある。この鏡の名称を、解答欄 I - A に漢字6字で記せ。

(2) 5世紀に成立した中国の正史には、下記のように、建武中元2年に倭国の使者が都の洛陽におもむいて光武帝から印綬を受けたと記されている。また永初元年に倭の国王が生口(奴隸)を献上したとある。

建武中元二年、倭の奴国、貢を奉じて朝賀す。使人自ら大夫と称す。倭国の極南界なり。光武、賜ふに^イ印綬を以てす。安帝の^c永初元年、倭の国王帥(帥)升等、生口百六十人を献じ、請見を願ふ。桓靈の間、倭国大いに乱れ更相攻伐して歴年主なし。(原漢文)

【設問 b】 この史料が含まれる中国王朝の正史の名称を [語群] から選んで、その番号を解答欄 I - B に記入せよ。

【設問イ】 下線部イに関連して、印は1784年に福岡県志賀島で発見された金印と考えられている。その印面に印刻されていた文字を漢字5字で、解答欄 I - A に記せ。なお綬は印に通し身につけるための紐をいう。

【設問 c】 下線部 c の「永初元年」は西暦何年にあたるか。適切な西暦年を〔語群〕から選んで、その番号を解答欄 I－B に記入せよ。

- (3) 日本人が倭人として登場する下記の史料からは、中国の王朝が朝鮮半島においた四郡の一つに定期的に朝貢していた国があったことがわかる。

夫れ（ウ）海中に倭人有り。分れて百余国と為る。歳時を以て来り献見すと云ふ。 (原漢文)

【設問ウ】 空欄（ウ）に入る郡名を、解答欄 I－A に漢字 2 字で記せ。

- (4) 朝鮮半島南部をめぐる外交・軍事上の立場を有利にするために、5 世紀初めから約 1 世紀近くのあいだ、倭の五王があいついで中国の南朝に朝貢している。中国王朝の正史には、下記の倭王武の上表文が載せられている。

興死して弟武立つ。自ら使持節都督倭・百濟・新羅・任那・（オ）・秦韓・慕韓七国諸軍事安東大將軍倭国王と称す。

順帝の昇明二年、使を遣して上表して曰く、「封国は偏遠にして、藩を外に作す。昔より祖禰躬ら甲冑を撰き、山川を跋渉して寧処に違あらず。

東は毛人を征すること五十五国、西は衆夷を服すること六十六国、渡りて海北を平ぐる事九十五国……」と。 (原漢文)

【設問 d】 この史料が含まれる中国王朝の正史の名称を〔語群〕から選んで、その番号を解答欄 I－B に記入せよ。

【設問エ】 下線部エの倭王武にあたとされる天皇の名を、解答欄 I－A に漢字で記せ。

【設問オ】 空欄（オ）に入る適切な語句を、解答欄 I－A に漢字で記せ。

【設問 e】 下線部 e の「昇明二年」は西暦何年にあたるか。適切な西暦年を〔語群〕から選んで、その番号を解答欄 I－B に記入せよ。

- (5) 中国が隋によって統一され、東アジアに大きな影響力を及ぼすようになると、朝鮮外交を有利に展開しようと第 1 回遣隋使が派遣された。下記の記事は、わが国の歴史書『日本書紀』にはみえないものである。

開皇二十年、倭王あり、姓は阿每、字は多利思比孤、阿輩雞弥と号す。使を遣して闕に詣らしむ。上、所司をしてその風俗を訪わしむ。 (原漢文)
続いて上記の史書には下記のように記される。

大業三年、其の王多利思比孤、使を遣して朝貢す。使者曰く、「聞くならく、海西の（キ）天子、重ねて仏法を興すと。故、遣して朝拝せしめ、兼ねて沙門数十人、来りて仏法を学ぶ」と。其の国書に曰く、「日出づる処の天子、書を日没する処の天子に致す。恙無きや、云云」と。帝、之を覽て悦ばず、（g）卿に謂ひて曰く、「蛮夷の書、無礼なる有らば、復た以て聞する勿れ」と。（原漢文）

【設問f】下線部fの「開皇二十年」は西暦何年にあたるか。適切な西暦年を〔語群〕から選んで、その番号を解答欄I-Bに記入せよ。

【設問カ】下線部カの「上」は、隋の皇帝を指す。この皇帝の名を、解答欄I-Aに漢字で記せ。

【設問キ】空欄（キ）に当てはまる適切な語句を、解答欄I-Aに漢字2字で記せ。文中の「（キ）天子」は、仏教に帰依して大乘仏教の戒を受けた皇帝を意味する語である。

【設問g】空欄（g）に当てはまる適切な語句を、〔語群〕から選んで、その番号を解答欄I-Bに記入せよ。なお（g）卿は役職名であるが、わが国では（g）館として外国使節接待の施設の名称に使用されている語句である。

【設問ク】大業3年の遣隋使のことは、『日本書紀』に「(推古天皇15年) 秋七月庚戌、大礼小野臣妹子を大唐に遣はす。鞍作福利を以て通事とす。」(原漢文)とみえる。文中の鞍作福利は通訳であるが、同名氏族に鞍作鳥がいる。鳥が造った作品が法隆寺金堂に安置されている。その作品の名称を、解答欄I-Aに漢字5字で記せ。

(6) 遣唐使は、舒明天皇2年8月に犬上御田鍬らを派遣したのを最初として、^ケ約20回の任命があった。遣唐使の組織は時期によって規模・内容を異にするが、大使・副使・判官・録事などの外交官の使節や船乗りだけでなく、多くの留学生や留学僧の若者たちが含まれていた。

8世紀の半ばになると朝鮮半島の国との外交関係が悪化したことにより、日本からの遣唐使は、比較的 안전한朝鮮半島沿いの（h）路を避け、東シナ海の荒波を乗り越えて、九州から直接中国をめざして航海しなくてはな

らなくなった。その航海では、多くの人々が命を失った。また、唐の地で没して葬られる場合もあった。運よく帰国を果たして大陸の先進文化を伝えることができた人々は、日本の政治・文化に大きな影響をあたえることもあった。

例えば732年に出発した遣唐使は4隻とも翌年に無事到着するが、帰国に際しては東シナ海を渡る経路をとり暴風雨にあった。大使の船は幸いにも種子島に漂着したが、ベトナム南部の崑崙国に漂着した船の人々は、平群広成らわずか4人だけが生き残った。そしてかろうじて平群広成らは崑崙国から唐に戻ることができた。彼らの日本帰国にさいして、(k) のとりなしで、今度は (l) 国経由で帰国するルートの許可を得た。この国は727年以来日本との間にたびたび使節の往来をしていた友好国であり、その王に遣日本使節の派遣を早めて、広成らは日本に送り届けてもらうことになった。しかしこの船も災難にあうが、広成はなんとか出羽国に到着できた。

【設問ケ】 下線部ケに関連して、遣唐使一行が渡航・帰航に乗った船は、編成される隻数から、『万葉集』にはその数を反映した呼び名がみえる。この呼び名を、解答欄 I - A にひらがなで記せ。

【設問 h】 空欄 (h) に入る適切な語を、[語群] から選んでその番号を解答欄 I - B に記入せよ。

【設問 i】 下線部 i に関連して、2004年に西安市でみつかった墓誌には、遣唐使の一員として717年(養老元)に唐に渡った人物が、皇帝から官職・位階をあたえられ、この地で亡くなり葬られたことが記されていた。この人物の名を、[語群] から選んでその番号を解答欄 I - B に記入せよ。

【設問 j】 下線部 j に関連して、702年に遣唐大使として大宝律令をもって唐に渡り、則天武後に謁見し、唐人から「よく経史を読み、属文を解し、容止温雅なり」と評された人物はだれか。この人物の名を、[語群] から選んでその番号を解答欄 I - B に記入せよ。

【設問 k】 空欄 (k) に入る人物は、留学生として唐に渡り勉強し、優秀さが認められ、玄宗皇帝に気に入られて政府の高官にまでのぼって活躍したが、帰国を果たせなかった。この人物名を、[語群] から選んでその番号を解答

欄 I - B に記入せよ。

【設問 1】空欄 (1) には、727年 (神亀 4) に日本に使節を派遣して国交を求め、奈良時代を通じて親密な使節の往来が行われた国の名が入る。適切な国名を、[語群] から選んでその番号を解答欄 I - B に記入せよ。

(7) 遣唐使は、(m) の中止以後、派遣されることはなくなった。しかしこの後も商人の来航は盛んであった。やがて10世紀末になると、天台山や (コ) への巡礼を目的とする僧には渡航が許され、齋然が呉越商人の船で宋に渡った。日本の朝廷としては、宋の皇帝に拝謁させ、朝貢ではない形式で国交を通じようという意図があったと推測されている。齋然は986年 (寛和 2) 7月に宋商人の船で帰国する。11世紀半ばの (oⁿ) も、宋の商船を利用して大陸に渡り、1072年 (延久 4) に浙江省杭州に上陸、天台山に登り、ついで (コ) を巡礼、汴京で宋の皇帝神宗に謁し、日本のことを奏上した。

【設問 m】空欄 (m) に入る適切な西暦年を、[語群] から選んでその番号を解答欄 I - B に記入せよ。

【設問 コ】空欄 (コ) には、山西省東北部にある仏教の聖地の名が入る。ここに入る適切な語句を、解答欄 I - A に漢字で記せ。

【設問 n】下線部 n に関して、帰国に伴いもたらされた釈迦如来立像を祀る寺院の名称を、[語群] から選んでその番号を解答欄 I - B に記入せよ。

【設問 o】空欄 (o) に入る適切な語句を、[語群] から選んでその番号を解答欄 I - B に記入せよ。

[語群]

- | | | | |
|----------|----------|----------|----------|
| 1. 57年 | 2. 107年 | 3. 239年 | 4. 266年 |
| 5. 413年 | 6. 443年 | 7. 478年 | 8. 600年 |
| 9. 603年 | 10. 607年 | 11. 630年 | 12. 663年 |
| 13. 884年 | 14. 894年 | 15. 901年 | 16. 旧唐書 |
| 17. 新唐書 | 18. 漢書 | 19. 後漢書 | 20. 三国史記 |
| 21. 三国志 | 22. 南齊書 | 23. 梁書 | 24. 隋書 |
| 25. 宋書 | 26. 宋史 | 27. 高麗史 | 28. 東大寺 |

- | | | | |
|---------|----------|-----------|-----------|
| 29. 延暦寺 | 30. 清涼寺 | 31. 園城寺 | 32. 南 島 |
| 33. 南 | 34. 北 | 35. 鑑 真 | 36. 玄 昉 |
| 37. 成 尋 | 38. 空 海 | 39. 道 慈 | 40. 薬師恵日 |
| 41. 井真成 | 42. 吉備真備 | 43. 阿倍仲麻呂 | 44. 粟田真人 |
| 45. 小野篁 | 46. 石上宅嗣 | 47. 藤原清河 | 48. 大伴古麻呂 |
| 49. 百 濟 | 50. 高句麗 | 51. 新 羅 | 52. 渤 海 |
| 53. 鴻 臚 | 54. 客 院 | 55. 東 寺 | |

〔Ⅱ〕 次の(1)～(3)の史料は、近世日本における社会・政治のあり方をめぐって書かれた書物から引用したものである。これらを読んで、以下の【設問ア】～【設問ツ】に答えよ。なお、史料の引用にあたり、一部表記をあらためたところがある。(45点)

- (1) 百姓は天下の根本なり。是を治むるに法あり。先一人ひとりの田地の境目をよく立て、^a扨壹年の入用作食をつもらせて、^b其余を年貢に取るべし。百姓は財の余らぬやうに、不足になきやうに治る事道也。^c毎年立毛の上をもつて納る事、古の聖人の法也。かくの如く収むる時は過不及なし。^d又九月十月のあいだに、国の内の道橋を造営して、往還の煩なきやうにすべし。入用は公儀より扶持すべし。此外に少しも民を仕ふべからず。又田地になき米を取り、^e横役にかけて百姓つかるる時は、田に糞を捨る力なし。田をかへす事も半作成に依て、物成あしく、^e此故につかれ民亡び、天下国家の費、一倍二倍にあらず。 (〔本佐録〕『日本思想大系28』岩波書店より)

【設問ア】 この史料は、17世紀後半頃、徳川家康の側近・本多正信に仮託して書かれたものとされる。次のうち、徳川家康の説明として誤っているものを一つ選び、その番号を解答欄Ⅱ-Bに記入せよ。

1. 豊臣政権下では、前田利家・毛利輝元・宇喜多秀家・上杉景勝らとともに五大老となった。
2. 関ヶ原の合戦において石田三成が率いる西軍に勝利したのち、1603年に江戸に幕府を開いた。

3. 1615年、大坂の陣において豊臣氏を滅ぼしたのち、征夷大將軍として武家諸法度を定めて幕藩体制を確立した。
4. 死後、朝廷から東照大権現の神号が勅諡され、駿河久能山に葬られたのち、日光に改葬された。

【設問イ】 下線部 a に関して、江戸時代の百姓の説明として誤っているものを一つ選び、その番号を解答欄Ⅱ－Bに記入せよ。

1. 年貢・諸役を負担して、村の主要な構成員となった百姓を一般的に本百姓と呼ぶ。
2. 年貢・諸役を負担しない無高の百姓は、水呑・水呑百姓などと呼ばれた。
3. 江戸時代の村には、有力な本百姓の家に隷属する名子や被官と呼ばれる人びとがいた。
4. 村を構成する百姓の家は、直系の男性のみが代々相続した。

【設問ウ】 下線部 b に関して、領主は自らの所領を把握するため、田畑・屋敷地の面積・石高・等級・耕作者などを調査したが、その結果を村の土地ごとにまとめ、年貢賦課の基準となった土地台帳を一般的に何と呼ぶか。解答欄Ⅱ－Aに漢字3字で記せ。

【設問エ】 下線部 c に関して、江戸時代の村・百姓の負担に関する説明として誤っているものを一つ選び、その番号を解答欄Ⅱ－Bに記入せよ。

1. 本途物成として、田・畑・家屋敷の貨幣価値の約40～50%を領主に納めた。
2. 山野河海の利用や農業以外の副業など、本途物成のほかにかかる雑税を小物成という。
3. 街道沿いの村々は、一般的に公用交通のために人足や馬を提供する必要があった。
4. 本途物成以外に村高に応じて賦課された負担として高掛物がある。

【設問オ】 下線部 d は、毎年作柄を調べてから税率を定めることを意味する。一般的にこうした徴税法を何と呼ぶか。解答欄Ⅱ－Aに漢字3字で記せ。

【設問カ】 下線部 e の解釈として誤っているものを一つ選び、その番号を解答欄

Ⅱ－Bに記入せよ。

1. 領主は、百姓たちの生活水準の維持に顧慮する必要はない。
2. 領主は、所領から恣意的に年貢などを徴収するべきではない。
3. 田畑への肥料の投入が充分でないと、年貢を十分に徴収することができない。
4. 年貢が十分に徴収できないことは、国家の疲弊につながる。

(2) 国にしまりを付くる事、(…)畢竟の処、武家を知行所におかざれば、し
まりの至極に非ず。そのみならず、武道を再興し、世界の奢りをしずめ、
武家の貧窮を救う仕形、この外さらにあるべからず。

まず第一、武家御城下*にあつまり居るは旅宿也。諸大名の家来も、その
城下に居るを、江戸に対して在所とはいえども、これまた己が知行所にあ
ざれば旅宿也。その子細は、衣食住初め箸一本も買い調べねばならぬ故、旅
宿也。故に武家を御城下に差置く時は、一年の知行米を売り払うて、それに
て物を買ひ調べ、一年中に使い切る故、精を出して上へする奉公は、皆御城
下の町人のためになるなり。これによりて御城下の町人盛んになりて、世界
次第にあしくなり、物の直段次第に高直になりて、武家の困窮、当時に至り
てはもはやすべきようなくなったり。 (『政談』岩波書店より)

(注) * ここでは江戸のことを指す。

【設問キ】この『政談』は、享保期(1716-36)に江戸幕府の将軍の諮問に
応えて荻生徂徠が上呈したとされる幕府政治に関する意見書だが、この将軍とは
誰か。解答欄Ⅱ－Aに漢字4字で記せ。

【設問ク】古文辞学派を創始した荻生徂徠が、江戸茅場町に開いた私塾を何と呼
ぶか。解答欄Ⅱ－Aに漢字3字で記せ。

【設問ケ】下線部fに関して、江戸時代に大名の家臣や幕府の旗本などに対して
領地を与えて、その領民支配を認める制度を一般的に何と呼ぶか。解答欄Ⅱ
－Aに漢字5字で記せ。

【設問コ】下線部gに関して、江戸時代の参勤交代の説明として誤っているもの
を一つ選び、その番号を解答欄Ⅱ－Bに記入せよ。

1. 参勤交代は幕府による大名統制策の一つである。

2. 参勤交代の制度化によって、江戸は一大消費都市としての性格を持つようになった。
3. 参勤交代によって、すべての大名は国元と江戸とを1年交代で往復することとなった。
4. 参勤交代による藩財政の負担は大きかった。

【設問サ】 下線部 h に関して、江戸時代の城下町・町人の説明として誤っているものを一つ選び、その番号を解答欄Ⅱ－Bに記入せよ。

1. 江戸時代の城下町では、町人・職人などの多くが屋敷地に掛けられる地子を免除された。
2. 江戸時代の城下町では、武家や町人などの身分ごとに居住地が分かっていた。
3. 江戸や大坂などでは、町などと呼ばれる居住者たちの自治組織が存在した。
4. 長屋などに住む借家・店借は、地代や店賃を負担することで町の運営に参加した。

【設問シ】 この史料で主張された幕政改革の方策としてもっとも適切なものを一つ選び、その番号を解答欄Ⅱ－Bに記入せよ。

1. 貨幣経済は商業を活発にするので、幕府は積極的に推進するべきである。
2. 兵農分離のあり方は弊害が多いため、武士は都市を離れて帰農するべきである。
3. 幕府財政の悪化を解消するために、産業と貿易を重視した重商主義の政策をとるべきである。
4. 万人が生産活動に従事することが理想であるから、武士による農民の支配は止めるべきである。

(3) 一体村役人なるものは、よく小前百姓を育て上ぐるやうに致すべき役意なるに、今は小前の難儀を厭はず、あるいは家の潰るるも構はず、親妻子散々になり果つるをも心に入れず、我が方へ取るべきものは少しも用捨なく取る事なり。 右体の振り合ひ故、近年は何方も (あ) 莫大に懸かり、ことに

より年貢よりも余計に懸かる風情にて、小前百姓の難儀、以前に倍せり。

一体右にいふ如くの福有^{ふゆう}は、元はみな小前百姓より絞り上げたるものにて、他所より取り得たる福有にはあるべからず。その上、右体自身耕作も致さぬものなれば、己が骨肉より繰り出したる有余にもあらず。みな工夫差略にて、愚昧を相手にして強欲非道を行ひ、その土地の潤沢を拾ひ上げ、あるいは金^k銀を貸して高利を取り、質地を取り、わづかの金銀を貸し置いて年来利に利を積み、つひにその地所を我がものとするとか、人の身上を見る儀をもつぱらとするなり。右体犯しあつめたる余情を以て福有者となり、後には他所へも運び出して、身の栄花を尽すなり、これらの年々に潤沢を締め上げて、常に奢りを極め、^(原文ママ)そのきに誇り、また他所にも持ち出すに依つて、自然とその土地衰微するなり。これその土地の大罪人なり。大盗人なり。

(『世事見聞録』岩波書店より)

【設問ス】 下線部 i に関して、江戸時代の村役人の説明として誤っているものを一つ選び、その番号を解答欄Ⅱ－Bに記入せよ。

1. 江戸時代の村役人には、一般的に庄屋（名主・肝煎）・組頭（年寄）・百姓代があり、これらを村方三役（地方三役）と総称する。
2. 村役人のなかには寺子屋を運営し、読み・書き・そろばんなどの日常生活に役立つことを教えるものもいた。
3. 村役人は村政の構成員である本百姓たちが領主に直接年貢を納入することを監督する役目があった。
4. 江戸時代の村々は村役人らが中心となり、村法などに基づいて運営がなされていた。

【設問セ】 空欄（あ）には、村を自治的に運営するために村人から徴収された経費を指す用語が入る。この用語を解答欄Ⅱ－Aに漢字3字で記せ。

【設問ソ】 下線部 j の空欄（あ）のあり方などをめぐって起きた、小前百姓による村役人などの不正糾弾の運動を一般的に何と呼ぶか。解答欄Ⅱ－Aに漢字4字で記せ。

【設問タ】 下線部 k に関して、江戸時代後半以降、農村部の商品経済の進展に伴って地主として土地を集積し、村々の流通・金融において大きな影響力を持

つようになった富裕な農民（富農）を一般的に何と呼ぶか。解答欄Ⅱ－Aに漢字2字で記せ。

【設問チ】この史料が書かれた時代には、都市の間屋が農村部の有力百姓と連携し、村々の百姓たちに資金や原料を貸与して綿製品などの特産品を生産する方式が見られるようになったが、こうした生産方式を一般的に何と呼ぶか。解答欄Ⅱ－Aに漢字7字で記せ。

【設問ツ】この史料で主張されていることとして誤っているものを一つ選び、その番号を解答欄Ⅱ－Bに記入せよ。

1. そもそも、村役人は零細な小前百姓の経営の維持に配慮すべき存在である。
2. 近年、村役人などの富裕な有力百姓に富が集まっているが、これは零細な百姓から搾り取られたものといえる。
3. 村役人たちは自らの贅沢・豪奢のために、富を地域外から取り入れており、「大罪人」「大盗人」として非難されるべき存在である。
4. 近年の地域の衰微の主要な要因は、領主と百姓の関係性ではなく、村役人らと小前百姓たちの関係性のあり方にある。

〔Ⅲ〕 岸田劉生（1891〔明治24〕年～1929〔昭和4〕年）は、画家としての活動のかたわら、多くの文を書き残したことで知られ、それらは全集10巻にまとめられるほどである。彼の文章から選んだ（1）から（5）までの文章を読んで、下記の【設問a】～【設問r】に答えよ。なお、出題のため、一部表現を改めた箇所がある。また〔 〕は、原典にない注釈を示す。 （45点）

（1）岸田劉生は、新聞記者から転じて実業家として成功していた岸田吟香の四男として銀座に生まれた。長じて後、彼は自らが育った頃の銀座を回顧したエッセイを1927（昭和2）年の『東京日日新聞』夕刊に連載する。

「私は明治二十四年に銀座の二丁目十一番地、^{ちょうど}丁度今の^{はっとり}服部時計店のところで生れて、鉄道馬車の鈴の音を聞きながら青年時代までそこで育って来た。だから銀座のうつりかわりは割合にずっと見て来ている^{わけ}訳であるが、

しかし正確なことはもとよりわからない。が、「煉瓦^{れんが}」と呼ばれた、東京唯一の歩道時代からのいろいろのうつりかわりにはまた語るべきことも多いようである。いろいろの思い出やら、変り行く世の姿から思い起す批評などとりとめもなくかいてみようと思う。

御承知の方々も多いと思うが私の生家は目薬の精錡水^{せいきすい}の本舗であって、岸田の薬善堂^{がくぜんどう}というよりも精錡水と云った方が通る位の店であった。父^{ぎんこう}（吟香）の道楽から店を半分に切って一方を薬房、一方を書房とし、書房^{b, c}では支那〔中国〕の筆墨硯紙^{けんし}その他文房具風のものや、書籍などを売っていた。〔中略〕

私の家の隣には勧工場^{かんこうば}があって私たち兄弟たちは毎日のようにそこへ行った。何でも私の家の家作^{かさく}であって、南谷という人がやっていた。〔中略〕勧工場も日露戦争後、デパートメント・ストアの流行とともにだんだんとすたれて、今は殆ど^{ほとん}なくなったようだが、当時は少し人出の多い盛り場には必ず一つや二つはあったものだ。〔「新古細句銀座通」(1927年)、『岸田劉生随筆集』、岩波文庫〕

【設問 a】銀座煉瓦街は、1872（明治 5）年、銀座、築地一帯を焼き払った「銀座大火」の後に、耐火性のある煉瓦を建材として建設されたもので、その設計は、イギリス人土木技術者、トーマス・ウォートルスによってなされた。ウォートルスのように、明治初期に西洋の学問・技術を導入するために日本の政府機関などによって抱えられた欧米人たちは、何と通称されたか。解答欄Ⅲ－A に記せ。

【設問 b】岸田の父、吟香は、幕末に横浜居留地で、あるアメリカ人が当時編纂していたローマ字の和英辞典『和英語林集成』の助手を務めた。その編纂者は誰か。下記の人物名から選び、その番号を解答欄Ⅲ－B に記入せよ。

1. フルベッキ
2. クラーク
3. ヘボン
4. モース

【設問 c】岸田吟香は、1873（明治 6）年に東京日日新聞（現・毎日新聞）に入社し、翌年には、日本初の従軍記者として海外に赴いた。彼が従軍したのは、明治政府によるはじめての海外派兵であった。その派兵先の場所はどこか。下記から選び、その番号を解答欄Ⅲ－B に記入せよ。

1. 朝鮮 2. 台湾 3. 華北 4. 満州

【設問 d】日本の近代的百貨店は、1905（明治38）年に、ある呉服店がさまざまな商品を陳列販売する小売形態を採用して、全国主要新聞各紙に「デパートメントストア宣言」を掲載したことにはじまると言える。この、江戸の老舗呉服店にはじまる百貨店の名前は何か。下記から選び、その番号を解答欄Ⅲ－Bに記入せよ。

1. 白木屋 2. 東横 3. 三越 4. 阪急

(2) 岸田は長じて生家を離れてからも銀座によく足を運んでいたようで、後に東京随一の盛り場となった銀座の様子も描写している。

「足が一步^e銀座に入ると実にモダンである。何かいい材料にと思ってポカンとしている前をつばめの如く、断髪の美女がかすめて通る。一と昔^{ひむかし}前の女性とは種類^fがちがうかのようにその足が早い。サッサッと歩いて行く。また向うから三人づれ位の美人が来る。実に女が多い。昔は外へ出て婦人に会うことは稀^{まれ}であったが、この頃は実に婦人が多い。みな別に用事のある風はない、しかし皆サッサッと歩いている。

このモダン^gガールというものの好みの審美的考察は如何、ともかくその美しさの種類は、「洋風」の美しさが基本となっている。洋服はかえって少く和服がなかなか多いが、しかし、そのあらわしている「美」の感じは洋風の美を基本としている」。 (前掲『岸田劉生随筆集』)

【設問 e】銀座は、第一次世界大戦後の時代の洋風化、近代化による新しい都市文化を代表する盛り場であった。そこには路面電車が走り、百貨店や劇場、喫茶店などが軒を並べて、当時の消費社会の中心となった。そうした文化を主に支えていたのは、「ホワイト・カラー」といわれる会社員、銀行員、公務員など、俸給によって生活する中産階級であった。そうした階層を何と称するか。解答欄Ⅲ－Aに漢字4字で記せ。

【設問 f】ここで言われている断髪とは、第一次世界大戦頃にヨーロッパから日本にはいつてきて流行した女性の髪型であるが、一方で大多数を占める日本風の髪型にも明治中期から変化は訪れ、洋髪を日本風にした、簡単に結えて衛生的な髪型が流行した。「二百三高地」や「庇髪」などを含むその髪型を

総称して何というか。解答欄Ⅲ－Aに漢字2字で記せ。

【設問g】「モダンガール」とは、昭和初期に現れた近代的な女性を、多少揶揄を込めて呼んだ言葉であるが、その中には第一次世界大戦中から戦後の経済発展のなかで職を持つようになった女性も少なくなかった。そうした女性たちは何と呼ばれたか。解答欄Ⅲ－Aに漢字4字で記せ。

(3) 画家としての岸田は、その短い生涯のなか、東西のさまざまな様式を参考にしながら、はげしく自身の様式を変えていったことで知られるが、その出発点となったのが、初期の雑誌『白樺』で紹介されていた同時代のヨーロッパの前衛芸術からの影響であった。

「『白樺』をはじめて買ったのは第二巻か三巻の四月号だったと思う。丁度その頃印象派というものが解り出していてそれに興味を持っていた。その号の『白樺』にルノアールの事とその作品が載っていたので興奮して買ったのを覚えている。[中略] 丁度その年の秋、赤坂の三会堂で『白樺』主催の版画の展覧会があった。その頃僕はまだ葵橋の洋画研究所へ時々は行っていて、清宮せいみや [彬]ひとしとは前からの友達だ。岡本帰一君とも仲がよかった。[中略] 清宮がその前から柳やなぎ [宗悦]むねよしと知り合いだったので僕たち三人はよくその展覧会へ行った。そしてはじめて見る版のいい西洋の原文ママ新らしい美術の複製に肝きもをうばわれた」。(「思い出及今度の展覧会に際して」(1919年)、前掲『岸田劉生随筆集』)

【設問h】『白樺』は、武者小路実篤、志賀直哉、有島武郎などの学習院出身者を中心とした若者たちが集まって発刊した雑誌で、その同人たちは、「白樺派」と呼ばれ、従来の日本文学とは異なる を掲げた。 にもっともよく当てはまる言葉を下記から選び、その番号を解答欄Ⅲ－Bに記入せよ。

1. 人道主義
2. 自然主義
3. 耽美主義
4. 写実主義

【設問i】『白樺』同人のひとり、柳宗悦は、名もなき民衆が作った工芸品に関心を寄せ、濱田庄司や河井寛次郎とともに、 という新たな言葉を作りだして、そうした工芸品の美を評価した。 に当てはまる言葉を解答欄Ⅲ－Aに漢字2字で記せ。

【設問 j】『白樺』は、同時代のヨーロッパにおける最先端の美術の動向を紹介したことで、日本近代美術史上、重要な存在である。1910年代から20年代にかけては、ヨーロッパの同時代美術に刺激を受けた芸術家たちが、アカデミックで権威的な文部省美術展覧会（文展）から離れ、次々に新たな美術団体を起こしていく。その先駆けのひとつとも言える、1914年に文展を離脱した洋画家たちが立ち上げた団体の名称は何か。下記から選び、その番号を解答欄Ⅲ-Bに記入せよ。

1. 白馬会 2. 二科会 3. 国画創作協会 4. 日本美術院

(4) 岸田は、1916（大正5）年に肺結核を患い、療養のために翌年、神奈川県の鶴沼海岸に移住する。鶴沼時代の岸田は、1920年に30歳を迎えたことをきっかけに日記をつけはじめ、それは彼の死まで続けられた。以下は白樺派にも関係が深かったイギリス人陶芸家、バーナード・リーチが帰国のための暇乞いに鶴沼を訪れた日の日記である。

〔1920（大正9）年〕六月二十一日（月）曇夜雨

今日はリーチの来る日、朝おきたれどねむいので座敷で横になる。それから日記や手紙の返事など書いて、椿〔貞雄〕をさそって藤沢〔駅〕にリーチを迎えに行ったが、一時十八分の汽車では来なかった。^k神田写真館に寄って今日来てもらう事にして一と先^ひず^ま鶴沼に帰り、椿の家で椿が今度かいた脚本読んでもらう。それから鶴沼停留所までリーチを迎えに行ったら丁度来合わせた電車^lに乗って来た。一分で汽車に乗りおくれたのだといていた。椿の家に寄り、椿の画など見る。牡丹の画や妹の素画に感心していた。それより三人で家に来る。〔中略〕十一時過ぎまで話し、椿帰り、リーチは二階に寝、余は階下に皆と寝る。リーチの上に幸を祈る。余も英国に行って見たくなった。^しが^なお^や志賀〔直哉〕^mから電報で明日十二時新橋ステーションに集合、ロダンを見に行くとの事、行く事にする。〔『摘録 劉生日記』岩波文庫〕

【設問 k】1872年（明治5）に新橋駅～横浜駅間で開業した日本の官営鉄道は、1887（明治20）年には神奈川県の国府津駅まで延伸されて、その途中にあった藤沢駅も開業することになった。最終的には1889（明治22）年に東京の新

橋と神戸をつなぐ鉄道線ができあがり、1895（明治28）年にその名称が正式に定められることとなる。その鉄道線の名称は何か。解答欄Ⅲ－Aに漢字4字で記せ。

【設問1】リーチを乗せて鶴沼停留所に来た電車は、1902（明治35）年に開業した江之島電気鉄道（現・江ノ島電鉄）であるが、それに先立ち、1895（明治28）年に日本ではじめて開業した路面電車はどの都市で運行されたか。解答欄Ⅲ－Aに漢字で記せ。

【設問m】小説家・志賀直哉は、『白樺』の同人であり、岸田とは旧知の仲であった。この時期の志賀は、その生涯のなかでもっとも創作に充実した時代であり、『白樺』のほか、さまざまな媒体に小説を発表していた。下記の小説のうち、志賀直哉の作品ではないものは何か。その番号を解答欄Ⅲ－Bに記入せよ。

1. 『暗夜行路』 2. 『和解』 3. 『城の崎にて』 4. 『或る女』

(5) 1923年9月1日に起こった地震は、マグニチュード7.9に及び、震源から離れた鶴沼でさえ多くの被害を与えた。岸田は、日記に被災の様子を克明に記録している。

〔1923（大正12）年〕九月一日（土） 雨後晴

今日という日は実に稀有の日である。恐らく安政以来の大地震ともいべき大地震があつて、湘南、横浜東京を一もみにつぶしたのである。〔中略〕十二時少し前かと思う。ドドドンという下からつきあげるような震動を感じたのでこれはいけないと立ちあがり、秦〔劉生の妻〕もつづいて立って玄関から逃れようとした時は大地がゆれてなかなか出られず秦などは倒れてしまった由、ともかく外へ出るとつなみの不安で、松本さんの方へかけ出そうとすると照子〔劉生の妹〕が大地になげつけられ松の樹で眼をやられたとて秦がかかえて血が流れている。ああ何たる事かと胸もはりさけるようである。家はもうその時はひどくかしいでしまった。もう鶴沼にもいられないと思ったがすぐ、これでは東京も駄目か、大へんな事になってしまったと思う。〔中略〕やっとなのがれて、藤沢の遊行寺か、武相へ行

こうとしたら途中石上の御百姓家へ呼びこまれる。非常に親切な家で、実に助かった」。(前掲『摘録 劉生日記』)

【設問 n】安政年間には、日本各地で大きな地震が連続して発生し、それを総称して「安政大地震」と呼ぶが、その中で1855年（安政2）に起きた直下型地震は、江戸に大きな被害をもたらした。その地震によって、水戸藩の徳川斉昭の側用人を務めていた人物が、自邸の崩壊で圧死した。藩政改革を行い、『弘道館記述義』を執筆、また水戸学者として尊皇攘夷思想を説いたその武士の人物名は何か。下記から選び、その番号を解答欄Ⅲ－Bに記入せよ。

1. 佐久間象山
2. 藤田東湖
3. 佐藤信淵
4. 平田篤胤

【設問 o】1923（大正12）年9月1日発生はこの地震は何と呼ばれているか。解答欄Ⅲ－Aに漢字5字で記せ。

【設問 p】地震の後の混乱のなか、流言飛語によって住民たちの組織する自警団により多数の朝鮮人などが殺害された他、憲兵の手によってある無政府主義者とその妻、甥が殺害された。その無政府主義者であり、評論家であった人物は誰か。その人物名を下記から選び、その番号を解答欄Ⅲ－Bに記入せよ。

1. 幸徳秋水
2. 荒畑寒村
3. 堺利彦
4. 大杉栄

【設問 q】地震の後、灰燼と帰した東京を復興するため、当時の内閣は、帝都復興院を設置して都市計画に基づいた復興を計画した。その総裁に任じられた人物は誰か。この人物は、植民地・台湾の民政局長を勤めた他、満鉄総裁、鉄道院総裁、通信相、内相、外相、東京市長も歴任した。その人物名を下記から選び、その番号を解答欄Ⅲ－Bに記入せよ。

1. 後藤新平
2. 山本権兵衛
3. 児玉源太郎
4. 平沼騏一郎

【設問 r】遊行寺は、正式には清浄光寺といい、1325年（正中2）に創建された古刹で、ある浄土信仰系の宗派の総本山として、今でも崇敬を集めている。遊行上人、捨聖とも呼ばれるその宗派の開祖は誰か。その人物名を解答欄Ⅲ－Aに漢字2字で記せ。